

安岡 明雄

希望

人口減少に対応する関係人口の創出

問 居住地以外で継続的に関わる人をふるさと住民として登録する「ふるさと住民登録制度」。国は8年中的開始を目指している。いち早く取り組み、地域づくりに関わる人を増やすのが重要では。

答 現在、国で検討しているふるさと住民登録制度は、登録者がふるさと納税や観光、ボランティアや二地域居住等、地域との関わり度合いに応じて、自治体からの情報提供や官民の様々な特典を享受できる仕組みと伺っている。市では、国の動向を注視しながら、同制度の活用等、関係人口拡大に資する新たな施策を引き続き検討したい。

「救えるいのちのために」がん対策強化

問 がん患者が抱えている課題を社会全体で支えることや、「チーム能代市」といった全市一丸となった取組により、市民が健康で、がん患者になっても生き生きと暮らせることが実現できるのでは。

答 市民が健康で心豊かな暮らしを実現するためには、市、市民、医療関係者等がそれぞれの立場で健康づくりに関し、連携・協力して推進していくことが重要である。今後、健康に対する意識醸成を図り、健康づくりの推進を強化する中で、がん検診の受診率向上など、がん対策にも重点的に取り組みたいと考えている。

その他の質問事項

- 誰一人取り残されない不登校対策の取組
- 人口減少を最小限に抑える政策展開
- 人口減少社会における行政業務の在り方

渡邊 正人

青松・公明党

令和8年度当初予算と今後の財政見通し

問 8年度当初予算案の7年度当初予算比で、市税や地方交付税の増加により財政調整基金の繰入の減、市債が大幅減となる。今後の財政調整基金や市債残高等、将来の財政見通しに対する考えは。

答 財政調整基金は今後も取り崩しながら財政運営していかねばならないと考えている。市債残高は7年度比で減少の見込みであり、市債の交付税算入を除いた実質負担率は20%後半〜30%前半で推移すると見込んでいる。非常に厳しい財政見通しだが、重要課題に取り組むため、自主財源の確保や歳入の削減に努めていく必要がある。

観光資源の魅力化と広域での観光の推進

問 自然資源、歴史や文化、体験型観光、「バスケットのまち」「宇宙のまち」など、市独自の地域資源のよさを生かしながら、広域的な結びつきを強める必要があると感じる。今後の市の取組は。

答 市だけでは観光資源に限りがあることから、能代山本等の広域エリアとして一体的に魅力を高め、発信することが必要と考えている。木都の歴史に触れる組子体験や天空の不夜城等の体験メニューを充実させていくとともに、周辺自治体や観光協会、DMO、他地域の観光団体等とも連携し、広域観光に取り組みたい。

その他の質問事項

- 当初予算に対する市長の思いや考えは
- ネーミングライツ導入効果の評価は
- 他の施設へのネーミングライツの導入は

富 貞一郎

市民ネットワーク
(市民の声、大河の会、能代民政会)

市長として成果を出した事業は

問 齊藤市政が誕生して20年。新能代市において、イオン出店問題に端を発した大変厳しい市政運営を担った中、成果を出した事業は。

答 産業振興では再生可能エネルギー導入や企業誘致、農業振興では白神ねぎのブランド化や林業活性化、子どもを生きやすい環境づくりでは、子供の医療費全額助成や学校給食、保育料の無償化を進めたほか、地域資源を生かしたまちづくりなど、様々な政策分野において積極的に施策を推進し、一定の成果を得ることができたものと考えている。

市長として今後継続してほしい事業は

問 人口減少という大きな問題を抱えながら、市長として今後も継続してほしい事業は何か。

答 人口減少や少子高齢化が進行する中、若者や女性に選ばれるよう、働く環境の向上や地域の特色を生かした産業のさらなる振興、子どもを生きやすい環境づくりなどに重点的に取り組む必要がある。このほかにも本市の将来にとって重要な施策は数多くあり、持続可能な地域づくりのための取組を総合的に推進していく必要があると考えている。

その他の質問事項

- 市長として成果を確認できない事業は
- 後進に伝えたいことは何か